

## Aloha ハワイと長崎をつなぐ ～ハワイ平和・環境フィールドワーク～

本校は、本年7月28日（金）にブリックホールにて高校生国際平和会議を主催します。ハワイ、オランダをはじめとする海外や、国内の中・高校生約 1000 名が参加予定です。実行委員長の溝口理子さん（高 3-7）と副実行委員長の小林ひよりさん（高 3-3）が、三菱未来育成財団と長崎東同窓会奨学会の助成を受け、3/25（土）～30日（木）にフィールドワークを実施しました。

### USSアリゾナ記念館（真珠湾）で合同平和フィールドワークを実施しました

University Laboratory School (ULS)の2名の生徒とアリゾナ記念館を訪れました。本フィールドワークの目的は、太平洋戦争の「始まりと終わり」を象徴する真珠湾と長崎を繋いだ平和探究を行うことで、多様な歴史的観点から平和について考察することです。記念館は、日本軍による真珠湾攻撃で犠牲になった乗組員を追悼するための施設です。慰霊所には、真珠湾攻撃で戦死した戦艦アリゾナの乗組員全員の名前が刻まれています。私たちは平和への願いを込めて、本校の国際会議実行委員で作成した折り鶴のレイをお供えしました。白亜の記念館の直下、水深 12 メートルに沈んでいる戦艦アリゾナからは、「アリゾナの涙」と呼ばれる油の筋が、攻撃から 82 年経った今でも絶えず浮かんできます。波間に漂う油の筋へ、ULS の生徒と一緒に、鎮魂の献花を行いました。おだやかな真珠湾には、戦争の爪痕がくっきりと残っており、胸が痛くなりました。被害を与えた側の日本人として多くのアメリカ人とともにここを訪れ、複雑な気持ちになったと同時に、二度とこのようなことがあってはいけないという平和構築への強い使命感を感じました。



### ハワイ大学マツナガ平和研究所とイーストウエストセンターを訪問しました

長崎東高校出身で、ハワイ大学 International Programs of Outreach College にて部門長をお務めの土居沙織 准教授によるコーディネートで、ハワイ大学にて研修を行いました。

研究所では、設立の由来や平和を構築するために必要な方法について、ハワイ大学の教育研究者であるホゼ先生からお話をいただきました。ホゼ先生とは、コロナ禍でハワイフィールドワークが実施できなかった際に、オンラインでご講演をいただいたことがありました。実際にハワイでお会いすることができ感激しました。また、ホゼ先生の研究室で、ハワイ大学の学生2名と意見交換しました。お二人は広島や長崎にいられて被爆の実相を学んでおり、平和や核兵器の問題について対話が深まりました。長崎東高校がホストする高校生国際平和会議について説明したところ、ホゼ先生から激励のお言葉をいただきました。



ハワイ大学イーストウエストセンターでは、アジア太平洋諸国の伝統工芸品や伝統衣装などが展示がされており、アジア太平洋諸国の民俗学や伝統文化についても学びを深めました。

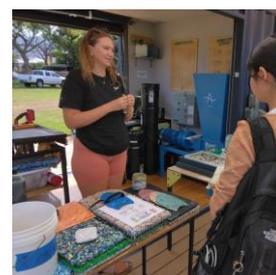
## ULS（ハワイ大学附属高校）の生徒と「平和」について意見交換しました

高校生国際平和会議に向け、ULSの生徒と「平和」について意見交換を行いました。主な意見としては、協力することや、異文化を理解すること、違う視点で考えることなどが挙げられました。特に印象に残っている発言には、open mindの姿勢、世界中の通貨を共通にすること、国家を1つにすることなどがありました。一人一人が積極的に発言し、批判に対しては整然と反論していました。相手のことを理解しようと質問をする姿もみられました。ハワイの高校生の主体性に刺激を受けるとともに、活発で、協働的なディスカッションが行える姿勢を東全体で磨いていきたいと思いました。私たちの訪問を温かく受け入れてくださり、ホームステイや授業を調整いただいたJeremiah校長先生とオダユカリ先生をはじめ、生徒のみなさんのおもてなしに感銘を受けました。Mahalo (=Thank you).



## 海洋環境ワークショップと水質浄化プログラムに参加しました

ハワイ大学の土居先生のコーディネートで、ビショップミュージアムを訪問し、プラゴミからリサイクル製品を開発・販売するParley AIR Stationのワークショップに参加しました。プラゴミから再生産されたサンダルやフロアシート（ワイキキのホテルにも使用されているそうです）を紹介していただきました。私たちからは対馬で実施されているプラゴミを燃料化するシステムを紹介し、関心を持っていただきました。



人口や観光客の増加により長年深刻な汚染問題を抱えてきたアラワイ運河の水質改善を目指して2019年に発足された「Genki Ala wai Project」に参加しました。このプロジェクトを企画・運営されている環境保護団体、EM Hawaiiの名護千賀子さんにご協力をいただきました。Genki Ala wai Projectの主な活動は、「Genki ボール」という浄化作用のある泥団子を作り、アラワイ運河に投入することです。Genki ボールにはEM(Effective Microorganisms/有用微生物群)が含まれています。EMとは、自然界に生きる人間にも環境にも優しい善玉菌の集まりのことで、1982年に比嘉照夫琉球大学名誉教授によって開発され、現在では農業、畜産、河川浄化、健康など様々な分野において世界中で用いられています。Genki Ala wai Projectが目指すのは、学校と地域が協働してアラワイ運河の生態系を守るという地域との共同にあります。地元の人にとって身近で愛着のあるアラワイ運河を通して地域の絆を深めるという意図に大変感銘を受けました。



今回のフィールドワークは、ハワイの文化や環境を肌で感じ、様々な人と対話交流をする中で多様な考え方に触れることができました。このフィールドワークでの学びを生かし、7月の国際会議を成功させることをもってハワイフィールドワークの最終成果といたします。今回のフィールドワークのためにご尽力いただいた先生方、事務の先生方、そしてご支援いただいた長崎東同窓会奨学会、三菱未来育成財団にお礼を申し上げたいと思います。誠にありがとうございました。

